

* 労働市場速報（平成25年5月分）について（解説メモ）

1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人倍率（季調値）は0.65倍となり、前月から0.01ポイント上昇。
直近の状況では、平成21年8～12月が0.37倍で底。
（神奈川の過去最低は平成11年4月、5月、6月の0.33倍）

- ・ 有効求人数（季調値） は、 83,770人（前月比1.8%増）
- ・ 有効求職者数（季調値） は、 128,667人（前月比0.0%増減なし）

2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人倍率（季調値）は1.04倍となり、前月から0.02ポイント減少。

- ・ 新規求人数（季調値）は、29,349人（前月比0.4%減）

- ・ 産業別新規求人数（原数値～前年比）は、建設業（7.1%増）、運輸業・郵便業（2.2%増）、卸売業・小売業（17.5%増）、医療・福祉（20.4%増）、で増加した。
製造業（4.8%減）、情報通信業（4.0%減）、宿泊業・飲食サービス業（10.5%減）、サービス業（4.1%減）、は減少した。

全産業では前年同月比6.0%の増加であった。【表4】

- ・ 新規求職者数（季調値）は、28,284人（前月比1.9%増）【表2b】

3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者、無業者は共に前年同月比で減少したが、在職者については増加した。

- ・ 離職者は前年同月比9.8%減
うち定年は前年同月比9.2%減
事業主都合離職者は前年同月比7.8%減
自己都合離職者は前年同月比10.8%減

- ・ 在職者は前年同月比1.1%増
- ・ 無業者は前年同月比13.3%減

4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、5月の受給者実人員は36,200人と、前年同月比3.8%増、前月比でも9.2%増加した。

(前年同月差=1,336人増加)

* ピーク時:平成21年7月=61,933人(6月:60,279人・8月:61,794人)

5. 就職件数の動向 【表3】

- 就職件数は6,944人と前年同月比2.0%の減少となった。

うち、正社員 2,925人(前年同月比 6.4%減)

非正社員 4,019人(前年同月比 1.4%増)

(雇用情勢の概況)

5月の有効求人倍率は0.65倍で前月から0.01ポイント上昇。

求人・求職の動きは、新規求人数(原数値)は前年同月比6.0%増加し、新規求職者(原数値)については前年同月比6.9%減少した。

県内の景気は、持ち直しに転じていることから、新規求人数は前年同月比で増加が続いている。しかし、ここ最近の為替相場の乱高下や原材料の値上げ等先行き不透明な状況にあることから、雇用情勢については、改善の動きもみられるものの、引き続き注視していく必要があると認識している。

新規求職者数は前年同月比で減少となり、事業主都合離職者についても減少となっている。新規求職者は前月については増加(0.6%)となったが、引き続き減少傾向にある。自己都合退職者についても減少の動きがみられる。

一方、新規求人数は前年同月比6.0%の増加となっており、建設業を含むサービス業関係で増加している。製造業については、減少となったが、増加に転じる月も見られるようになり、今後の求人増加に期待したい。

今後は新聞報道でもあるように圏央道の全線開通が予定されており、沿線の厚木市や相模原市、愛川町には大型物流施設などの建設ラッシュが続いていることから、雇用創出の期待も膨らんでいる。引き続き雇用の確保に向けた取り組みを進めていく。